



「続く」を支える。

ヤマタネ

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月26日
株式会社ヤマタネ
(証券コード：9305)



1. 2023年3月期 決算概要	P 2
2. 2024年3月期 決算見通し	P14
3. 中期経営計画の進捗状況	P20
4. サステナビリティの取組み	P27
5. 参考資料	P30



1. 2023年3月期 決算概要

- (1) 連結決算概要
- (2) セグメント別決算概要
- (3) 連結キャッシュフロー
- (4) 連結財政状況

1. (1) 連結決算概要

2021年8月に開業した KABUTO ONE および 2022年4月に100%連結子会社となった (株)シンヨウ・ロジ が業績に寄与し、前期比で**増収増益**

(単位:百万円)

	22/3期 実績	23/3期		前期比		計画比	
		計画	実績		増減率		増減率
売上高	46,765	51,300	51,090	4,325	9.2%	▲ 209	▲ 0.4%
営業利益	3,002	3,300	3,588	585	19.5%	288	8.7%
営業利益率	6.4%	6.4%	7.0%	—	—	—	—
経常利益	2,655	3,200	3,501	845	31.9%	301	9.4%
EBITDA	5,317	6,680	6,899	1,581	29.7%	219	3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,832	1,850	2,150	317	17.3%	300	16.2%

1. (2) セグメント別決算概要

物流セグメント

ポイント

【増収増益】

- ・ 昨年4月に100%連結子会社となった
(株)シンヨウ・ロジが収益に大きく寄与
- ・ 国内での貨物の荷動きが回復
- ・ 海外引越とフォワーディングの取扱いが回復し、
運賃高騰とともに売上増加に寄与

1. (2) セグメント別決算概要

物流セグメント

売上高
(百万円)

30,000

20,000

10,000

0

21,941

22,306

21,909

24,348

2,219

2,444

2,360

2,494

20/3期

21/3期

22/3期

23/3期

■ 売上高 ● 営業利益

営業利益
(百万円)

4,000

3,000

2,000

1,000

0

売上高

24,348 百万円

前期比 (増減)

+2,438 百万円
(+11.1%)

営業利益

2,494 百万円

前期比 (増減)

+133 百万円
(+5.7%)

1. (2) セグメント別決算概要

食品セグメント

ポイント

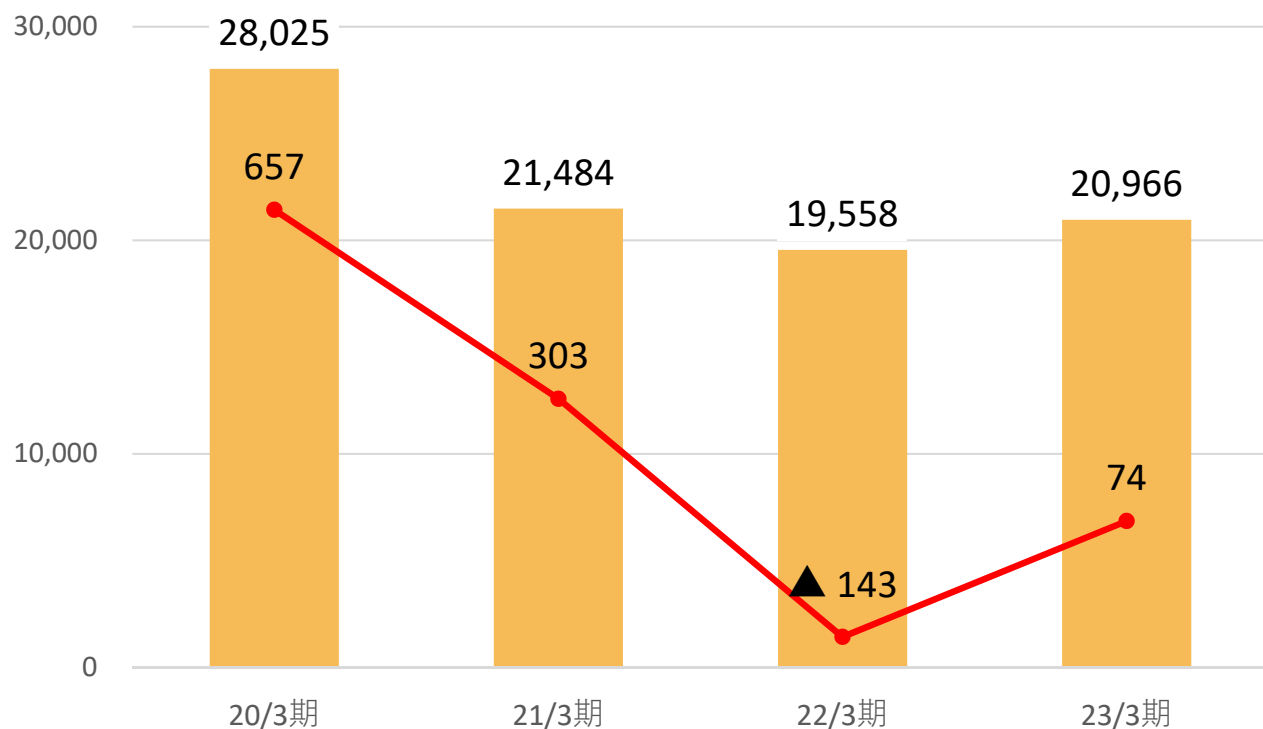
【増収増益】

- ・ 外食需要の回復と量販店向け販売シェアの拡大により、精米販売が増加（前期比10.9%増）
- ・ 玄米は米価の先高感を受けて需要が増えたことにより、販売量増加（前期比11.0%増）
- ・ 印西精米センターに生産拠点を集約し、生産効率が向上（営業原価が前期比で約26%削減）。
一方、減価償却費負担は増加
- ・ 棚卸資産評価損が大幅に減少

1. (2) セグメント別決算概要

食品セグメント

売上高
(百万円)



売上高 営業利益

営業利益
(百万円)

売上高

20,966 百万円

前期比 (増減)

+1,407 百万円
(+7.2%)

営業利益

74 百万円

前期比 (増減)

+218 百万円
(前期は143百万円の損失)

1. (2) セグメント別決算概要

情報セグメント

ポイント

【増収増益】

- ・ 顧客先常駐でのシステム基盤構築や保守運用
案件の拡大と新規獲得
- ・ グループ内システム投資費用の減少

1. (2) セグメント別決算概要

情報セグメント

売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)

売上高

1,693 百万円

前期比 (増減)

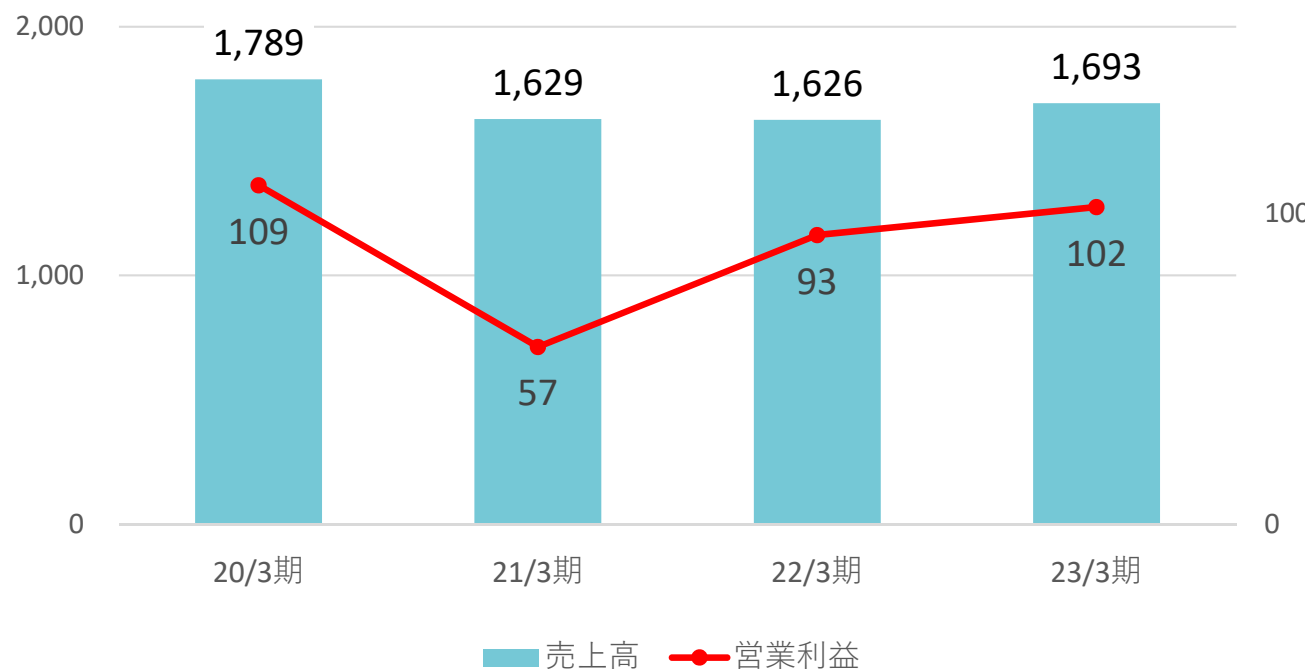
+67 百万円
(+4.1%)

営業利益

102 百万円

前期比 (増減)

+8 百万円
(+9.4%)



1. (2) セグメント別決算概要

不動産セグメント

ポイント

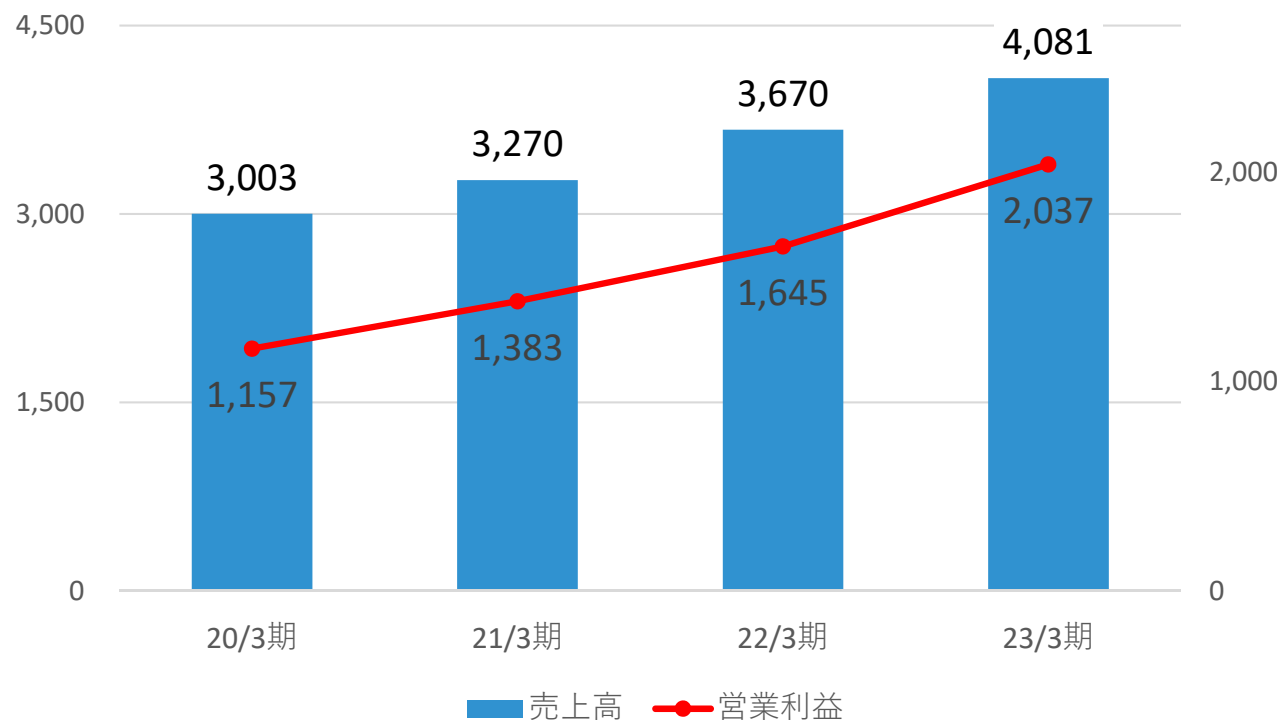
【増収増益】

- ・ 賃貸用物件の高稼働率を維持
(不動産部門全体で99.7%) ※2023年3月時点
- ・ 2021年8月に開業したKABUTO ONEの収益寄与
- ・ 前期計上したKABUTO ONEの不動産取得税がなくなったことにより前年同期比で費用減少

1. (2) セグメント別決算概要

不動産セグメント

売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)

売上高

4,081 百万円

前期比 (増減)

+411 百万円
(+11.2%)

営業利益

2,037 百万円

前期比 (増減)

+392 百万円
(+23.8%)

1. (3) 連結キャッシュフロー

税金等調整前当期純利益等で、69億82百万円の収入
設備投資やM & A、有利子負債返済等の支出で、
現金及び現金同等物の残高は、前期末比9億55百万円増加

(単位：百万円)

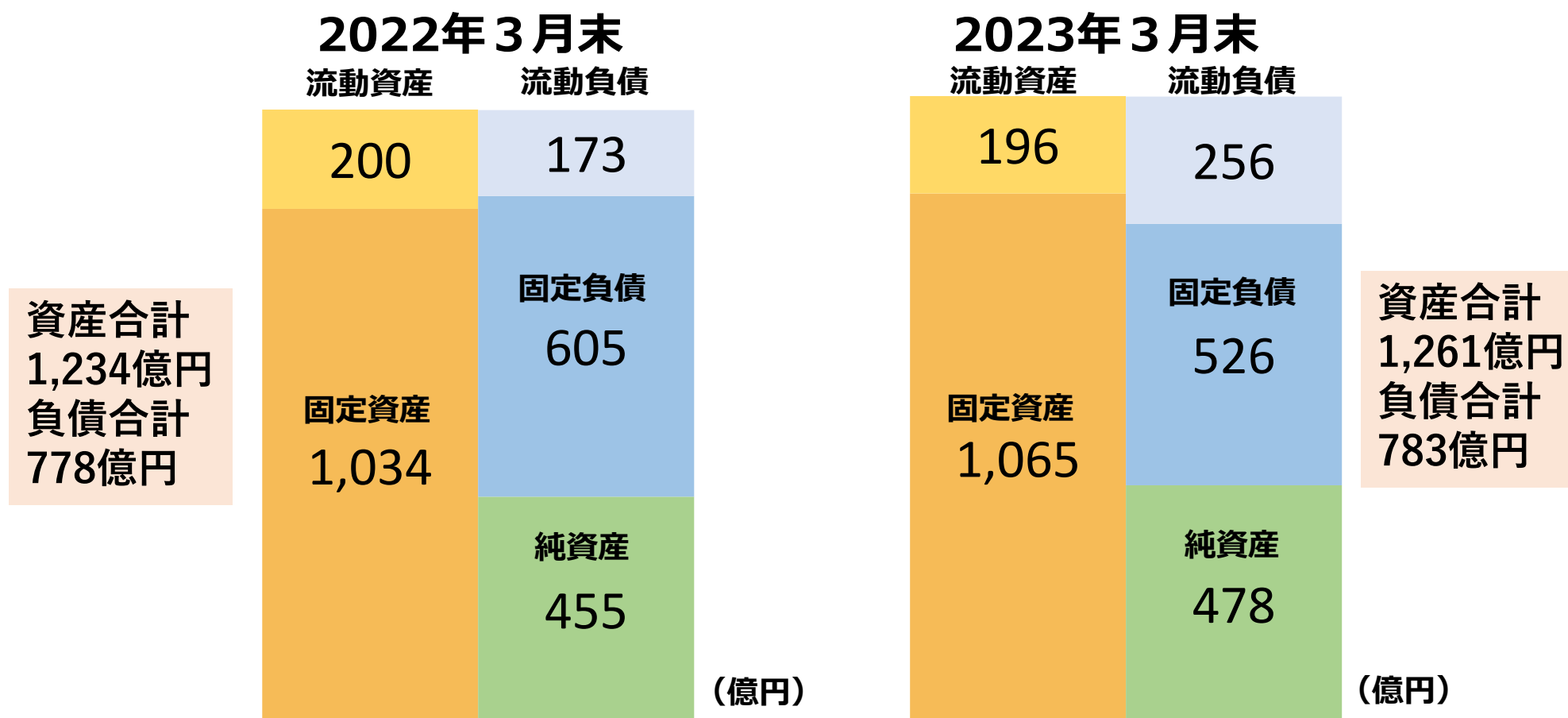
	22/3期	23/3期	増減
期首残高	16,529	7,459	△ 9,069
営業C/F	4,242	6,982	2,739
投資C/F	△ 9,725	△ 3,051	6,674
財務C/F	△ 3,585	△ 2,974	611
期末残高	7,459	8,415	955
増減額	△ 9,069	955	10,025

1. (4) 連結財政状況

(株)シンヨウ・ロジの子会社化によるのれんの発生や有形固定資産の増加等により
前期末比27億62百万円の資産の増加

有利子負債が減少したものの同4億42百万円の負債の増加

親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により同23億20百万円純資産が増加





2. 2024年3月期 決算見通し

- (1) 連結決算見通し
- (2) セグメント別決算見通し

2. (1) 連結決算見通し

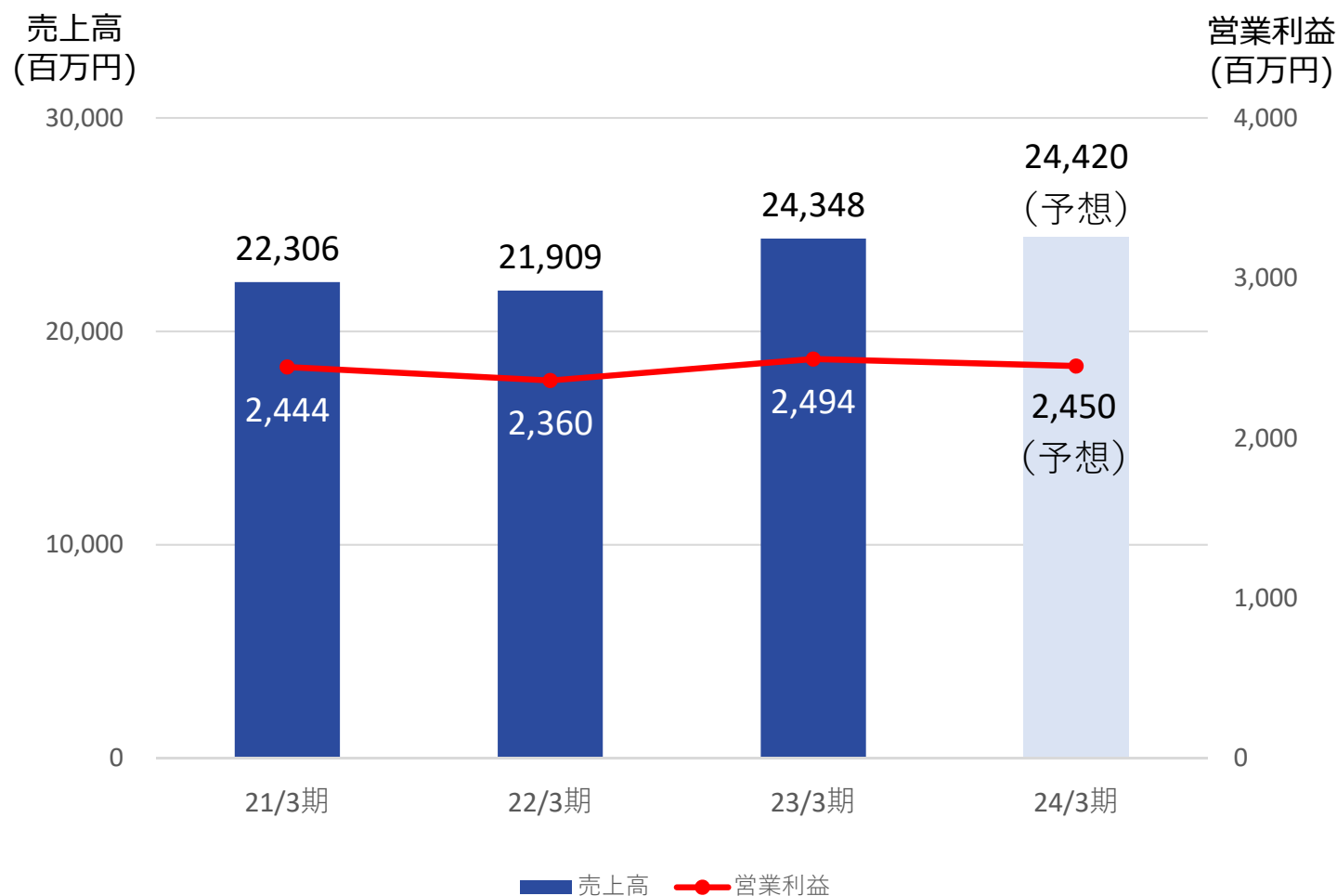
食品部門での精米販売量の増加を主要因として増収を計画。
利益面では、電力料等の諸費用や人件費、IT投資等の増加により
減益の見通しながら最終利益は遊休不動産の売却で増益を見込む

(単位:百万円)

	23/3期 実績	24/3期 見通し	増減額	増減率
売上高	51,090	53,500	2,409	4.7%
営業利益	3,588	3,140	▲ 448	▲ 12.5%
営業利益率	7.0%	5.9%	—	—
経常利益	3,501	3,100	▲ 401	▲ 11.5%
EBITDA	6,899	6,430	▲ 469	▲ 6.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,150	2,200	49	2.3%

2. (2) セグメント別決算見通し

物流セグメント



売上高 (予想)

24,420 百万円

前年同期比 (増減)

+71 百万円
(+0.3%)

営業利益 (予想)

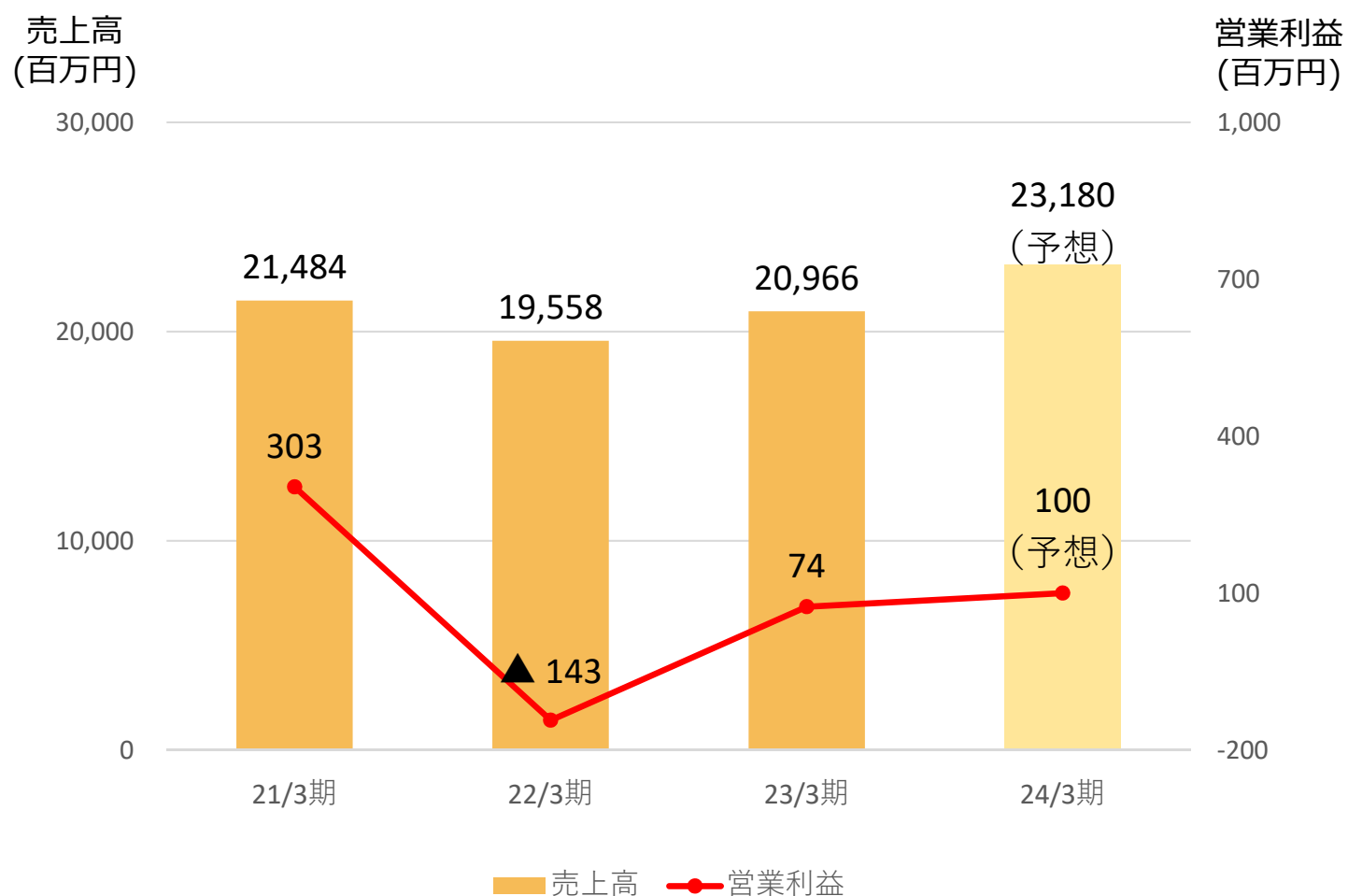
2,450 百万円

前年同期比 (増減)

▲44 百万円
(▲1.8%)

2. (2) セグメント別決算見通し

食品セグメント



売上高 (予想)

23,180 百万円

前年同期比 (増減)

+2,213 百万円
(+10.6%)

営業利益 (予想)

100 百万円

前年同期比 (増減)

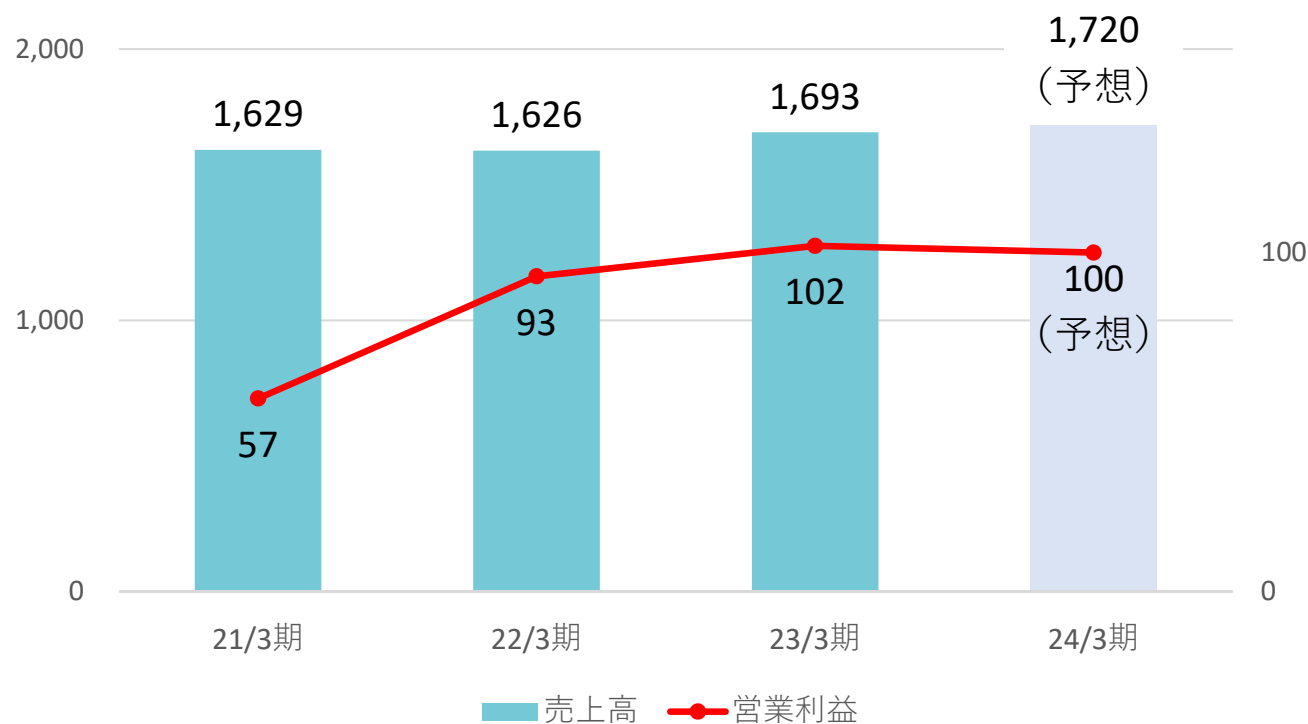
+25 百万円
(+34.0%)

2. (2) セグメント別決算見通し

情報セグメント

売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)



売上高 (予想)

1,720 百万円

前年同期比 (増減)

+26 百万円
(+1.6%)

営業利益 (予想)

100 百万円

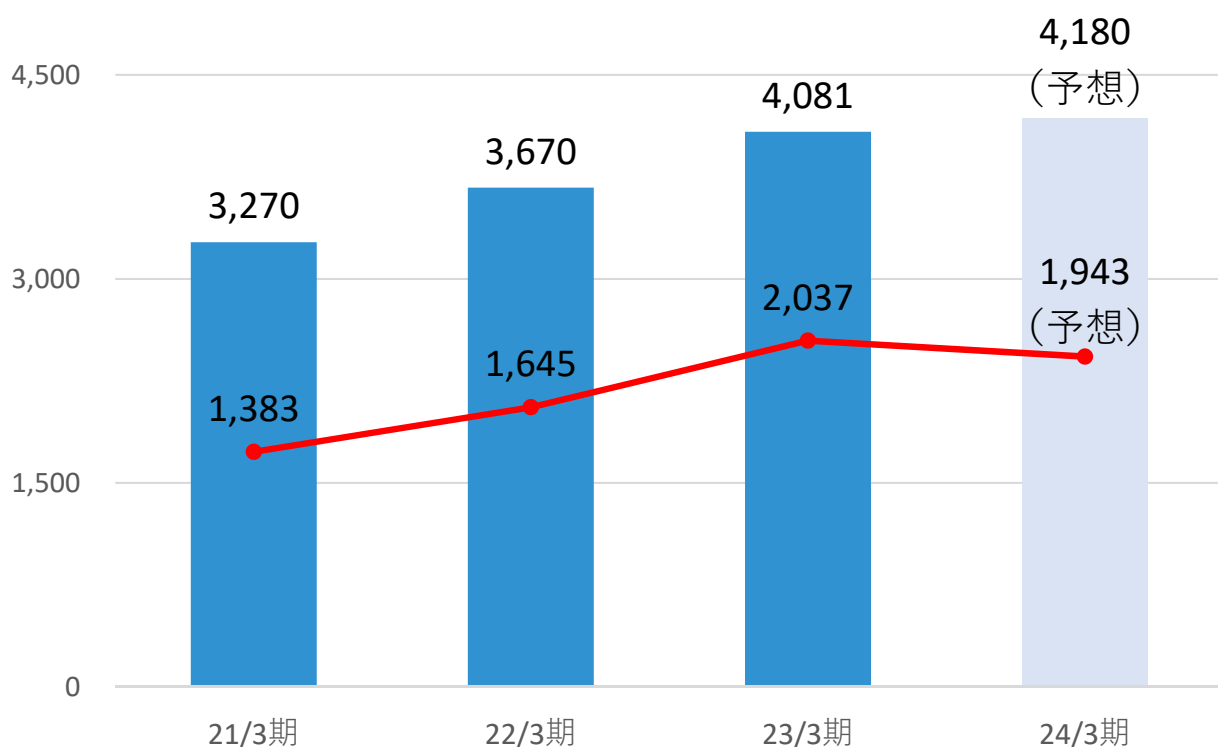
前年同期比 (増減)

▲2 百万円
(▲2.5%)

2. (2) セグメント別決算見通し

不動産セグメント

売上高
(百万円)



■ 売上高 ● 営業利益

売上高 (予想)

4,180 百万円

前年同期比 (増減)

+98 百万円
(+2.4%)

営業利益 (予想)

1,943 百万円

前年同期比 (増減)

▲94 百万円
(▲4.6%)



3. 中期経営計画の進捗

- (1) 財務目標
- (2) チャレンジ領域
- (3) コア事業領域
- (4) 今期の重点取り組み課題



3. (1) 財務目標

中期経営計画「ヤマタネ2025プラン」財務目標

	実績 2023年3月期	目標 2025年3月期
売上高	510億円	565億円
営業利益	35億円	32億円
EBITDA	68億円	66億円
総資産	1,261億円	1,184億円
有利子負債	533億円	520億円
ROE	4.9%	5%以上
配当性向	26.9%	35%以上

3. (2)チャレンジ領域

チャレンジ領域 進捗状況

チャレンジ領域

部門	目標	進捗
物流	新たな事業領域への進出のため、食品量販店センター運営等に取り組む	2022年4月にシンヨウ・ロジをM&Aしたことにより、食品量販店センター運営等に参入。 需要の高まるコールドチェーン分野に事業領域を拡張。
食品	気候変動リスクや消費者ニーズの変化を踏まえ、新たな品種や商品の開発に着手する	実需ニーズに結びつく銘柄の多収栽培（ホルモン剤の使用、再生二期作）の実験をJAと実施。 収量の増加は確認できたので、実現に向けた課題解決の協議を継続。

3. (2)チャレンジ領域

チャレンジ領域 進捗状況

チャレンジ領域

部門		目標	進捗
情報	不動産	棚卸機器レンタルのノウハウが詰まったスマホ用棚卸アプリを提供し、幅広い顧客の棚卸ニーズに応える	流通業界を中心に新規開拓及びレンタル利用顧客のアプリ切り替えを推進。 得意先の大手デパートでは約5割の切り替えが完了。 拡販のため端末メーカーにも提案。
		倉庫業併営を活かして物流不動産等の仲介ビジネスを強化する	不動産賃貸と寄託の両面から営業するが実績未達。 ターゲットの規模などの営業戦略を見直し中。
		本社が所在する越中島地区の再開発の方向性をまとめる	河川に面した美しい景観や都心近接の立地ポテンシャルを最大限活かすため、コンサルタントを入れて土地利活用プランを検討中。

3. (3)コア事業領域

コア事業領域 進捗状況

コア事業領域

部門	目標	進捗
物流	荷主やサプライチェーン上の各プレイヤーと連携・協働し、物流の効率化や高度化を目指す	既存倉庫と同一敷地内に危険品倉庫を建築することにより、荷主のVMI倉庫運営業務を受託。
	収益力向上のため、新倉庫の開設や既存倉庫のリプレイスを行う	横浜市の本牧埠頭に延床面積19,584㎡の倉庫建設を決定。 2024年6月の竣工を目指して今年3月に着工。 稼働率は竣工年で50%以上を見込む。
食品	米流通の各段階において品質と安全性を保ち、安心できる商品を消費者に対して安定的に供給する	印西精米センターの生産計画と原料計画の緻密化と安定化を図るため、受注生産方式ではなく、見込み生産方式を実施。 倉庫を併設した新工場の競争優位性を構築。
	生産・流通コストの低減を追求し、産地との結びつきを強化する	農業などの一次産業向けの人材支援会社と資本業務提携を結び、 産地の人手不足解消に向けた取組みを本格化。

3. (3)コア事業領域

コア事業領域 進捗状況

コア事業領域

部門	目標	進捗
情報	DXに必要な技術を提供するパートナーとして、幅広い高度なITスキルを有する技術者を育成して顧客に供給する	マルチランゲージ対応のためオープン系技術者2名がレガシー言語（COBOL,RPG）を習得。基盤系では顧客ニーズに対応するため、z/OSオペレーティング・システムのセキュリティ・サーバーのコンポーネントであるRACFを習得。
不動産	所有物件の品質（安全性・利便性・快適性・環境性）を高め、不動産価値を向上させる 不動産管理をクラウドデータベースによって効率化し、プロパティマネジメント領域のビジネスを拡大する	兜町再開発物件である「KABUTO ONE」に地下鉄茅場町駅との地下通路が開通。 各種データのクラウドデータベース化を完了。 業務フローを標準化することでシステムの活用度合を高め、プロパティマネジメント業務環境を構築。
管理	教育・研修などの人的資本への投資を拡充するとともに、専門能力や経験を有する高齢者雇用や女性管理職の登用を推進し、多様な人財基盤を構築する 取締役会がリスクと機会の実態を把握・監督できるようにガバナンス体制を強化する	階層別研修と職種別研修からなる新たな研修制度で運用開始。 また非管理職の女性社員に対してキャリア研修を実施し、一般職から総合職へのコース転換を促進。 2023年3月開催の取締役会において、2023年6月開催予定の当社第124回定時株主総会の承認を条件として、監査等委員会設置会社に移行することを決議。

3. (4)今期の重点取組み課題

2023年度 経営方針

<基本方針>

2024年の100周年に向けて、グループ一丸となってパーパスを確かなものにするため、全ての役職員が具体的な行動に取り組んで行く

<重点方針>

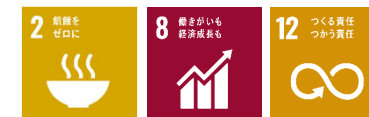
	重点方針	取組施策
1	経営のスピードアップ	・ 事業戦略部新設によるチャレンジ領域への取組加速 ・ 事業運営の効率化 ・ 風通しの良い企業文化の醸成
2	コア事業領域の更なる進化	・ 適正な利潤の確保 ・ 目指すべき事業モデルへのチャレンジ
3	情報システム部門の強化と進化	・ デジタル推進本部新設による攻めと守りの情報システム体制構築
4	人的資本投資の拡充	・ パーパス浸透の取組強化 ・ 充実した研修体制の構築 ・ エンゲージメント向上への取組推進



4. サステナビリティの取組み

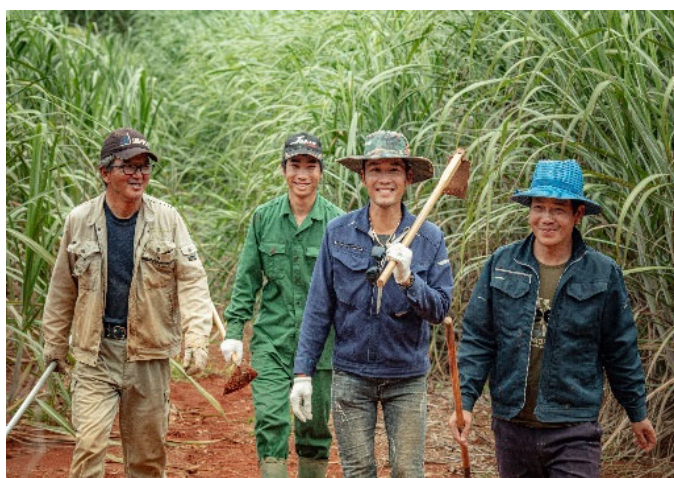
4. サステナビリティの取り組み

■ 持続可能なコメ調達の推進



「続く」を支える。

ヤマタネ



○人材支援会社との提携

第一次産業の人材支援事業等を展開し、産地での農業人材不足の課題解決に積極的に取り組んでいるYUIME株式会社と2022年12月に資本業務提携を締結いたしました。

当社グループは、「ヤマタネ2031ビジョン」において「持続可能な営農に向けた産地連携の強化」を目標としており、両社の持つ経営資源を活用して、新たなビジネスモデルや新サービスまたは新製品、新技術等の開発ならびに開拓を行ってまいります。

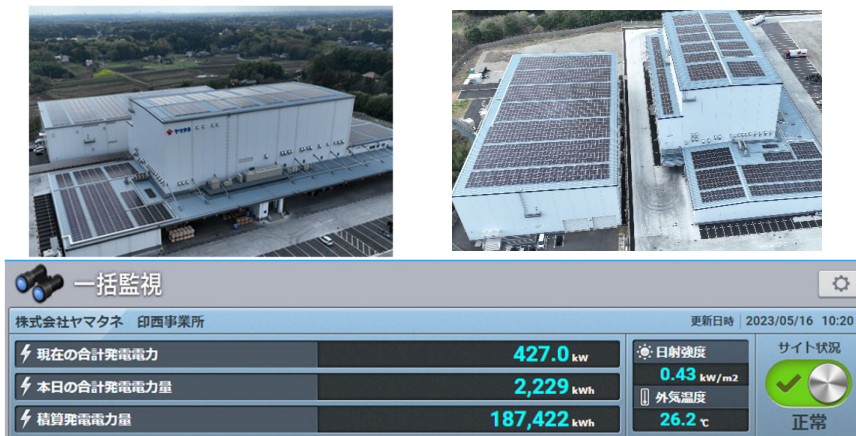
4. サステナビリティの取り組み

■ 環境に配慮した事業活動の推進



○太陽光パネル 設置

印西精米センター及び印西アーカイブズセンターの屋根に太陽光パネルを合計2,268枚設置し、発電した電力の全量を同2つのセンターに供給します。本設備のパネル容量は1,224kW、年間想定発電量1,114MWhの電力を供給することが可能となり、年間で509トンのCO2排出を削減できる見込みです。



○精米過程で発生したとぎ汁の再利用

印西精米センターにおいて、無洗米の製造過程で発生する排水を養豚飼料の原料として有限会社ブライトピック千葉へ提供しております。養豚飼料の原料として再利用することで、廃棄処理エネルギーとCO2の削減、循環型社会へ寄与しています。





5. 参考資料

会社名	株式会社ヤマタネ	
創業	大正13年7月（1924年） <u>2024年で創業100周年</u>	
所在地	東京都江東区越中島一丁目2番21号	
資本金	105億55百万円	
上場市場	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：9305）	
代表者	代表取締役社長 代表取締役副社長 代表取締役副社長	山崎 元裕 角田 達也 鈴木 康道
従業員数	連結：923名（2023年3月末現在）	
事業内容	・物流関連 倉庫業・港湾運送業・通関業・貨物利用運送業 ・食品関連 主要食糧卸売販売業 ・情報関連 情報機器のソフトウェアの設計、開発、販売及び情報処理サービス業 ・不動産関連 不動産の売買、仲介、賃貸および管理	
関係会社	連結子会社： 6社（2023年3月現在）	



物流セグメント

調達から生産・販売・静脈物流に至るまで、
お客様の企業活動を支える物流プラットフォームを提供

食品セグメント

日本の食文化を支えながら生産地と協働し、
地域農業の維持・発展に努める

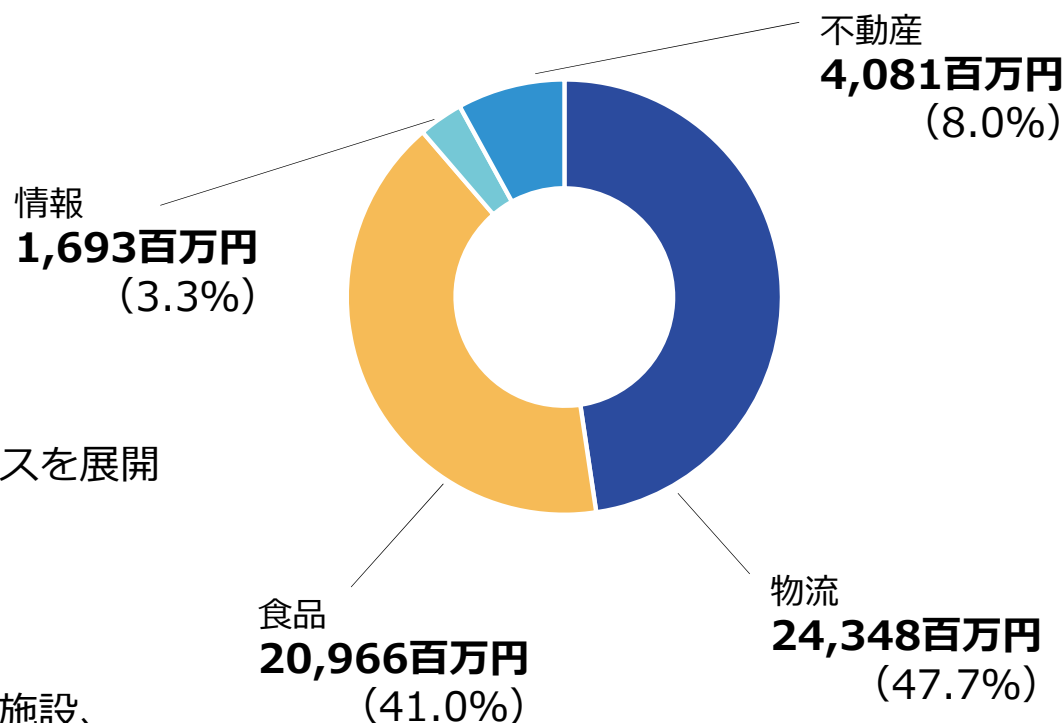
情報セグメント

幅広い分野でITソリューションと運用サポートサービスを展開

不動産セグメント

保有するオフィスビル賃貸に重点を置き、物流・商業施設、
駐車場等の効率的な運営を実施
プロパティマネジメント、不動産の売買・仲介等も展開

■セグメント別売上高（2023/3期）



2030年サステナビリティ目標

○環境に配慮した事業活動の推進

- ・温室効果ガス排出量削減
- ・エネルギー使用量の削減
- ・廃棄物及び有害物質の管理

2030年目標

- GHG排出量削減 2013年度対比
▲50%以上

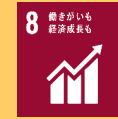


○製品・サービスの品質向上

- ・安心、安全な商品・サービスの提供
- ・安全衛生の推進
- ・個人情報保護及び高度なデータセキュリティ
- ・リスクマネジメント

2030年目標

- 重篤な労働災害事故(※1) 0件
- ISO9001認証取得 全拠点
(営業倉庫/精米工場)
- 個人情報漏洩事故 0件

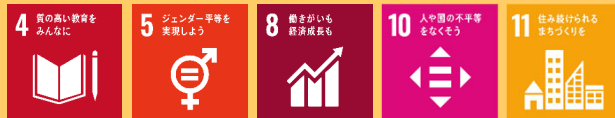


○人財の多様性と活躍の促進

- ・生産性向上による働き方改革
- ・人財育成及び教育
- ・女性活躍を含む多様な人財の活躍推進
- ・差別防止及び社会的弱者への配慮

2030年目標

- 有給休暇取得率 80%以上
- 女性管理職比率(※2) 20%以上
- キャリア採用者の活躍促進



○地域コミュニティ及び生産地と農業の発展

- ・コミュニティへの参画及び発展への寄与

2030年目標

- 地域社会の文化活動への貢献
- 大規模災害発生時の官民連携を推進
- 産地・行政・取引企業との
コンソーシアム構築

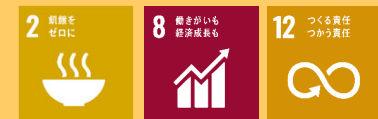


○持続可能なコメ調達の推進

- ・持続可能な材料調達と効率的な使用

2030年目標

- 産地のブランド化による
持続的営農の実現



○コーポレート・ガバナンスの深化

- ・経営の健全性の確保、効率化の追求、
透明性の向上、再現性の堅持
- ・リスクマネジメント
- ・適正な情報開示

2030年目標

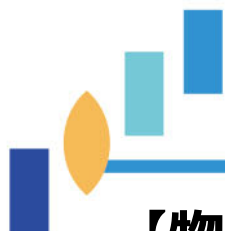
- 取締役会によるリスクと機会の把握
と適切な対処
- 重大なコンプライアンス違反 0件



※1 重篤な労働災害事故

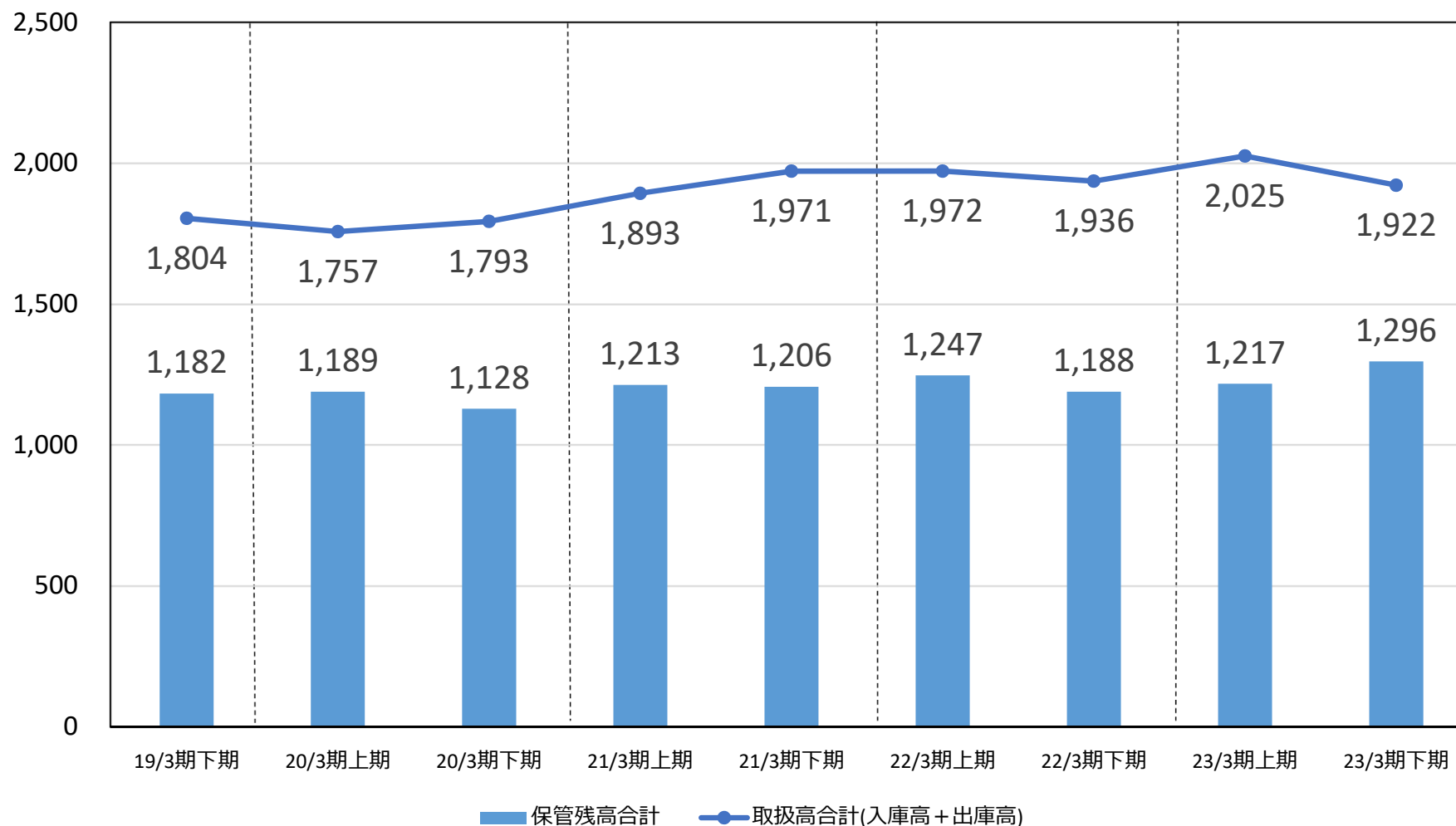
① 死亡、長期療養を要する（または可能性のある）疾病、障がいの残る（または可能性のある）怪我、特定伝染病② 一時に3人以上の労働者が業務上死傷または罹病した災害（不包含む）

※2 対象範囲：株式会社ヤマタネ



【物流】 保管残高合計/取扱高合計

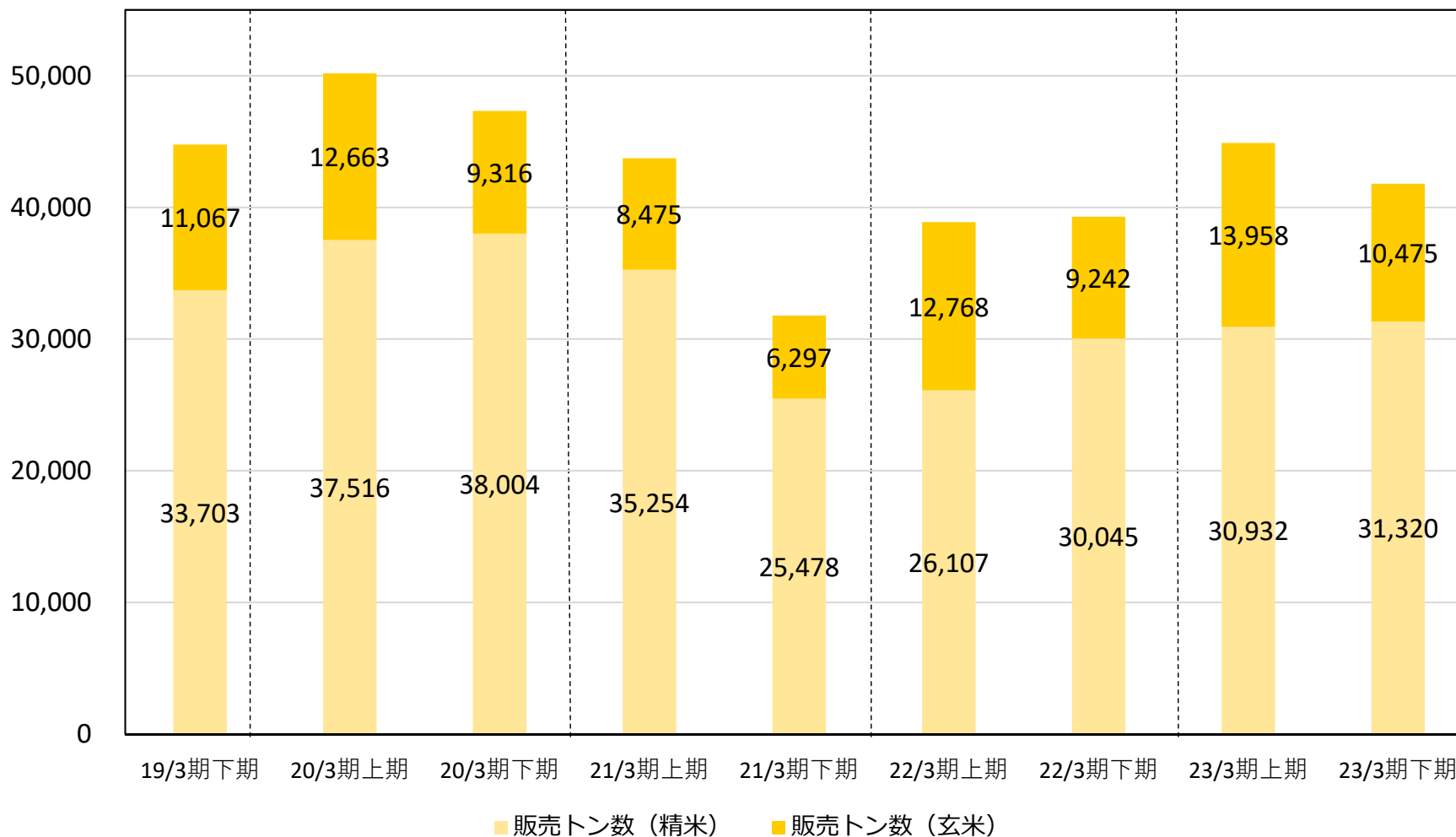
(単位:千トン)





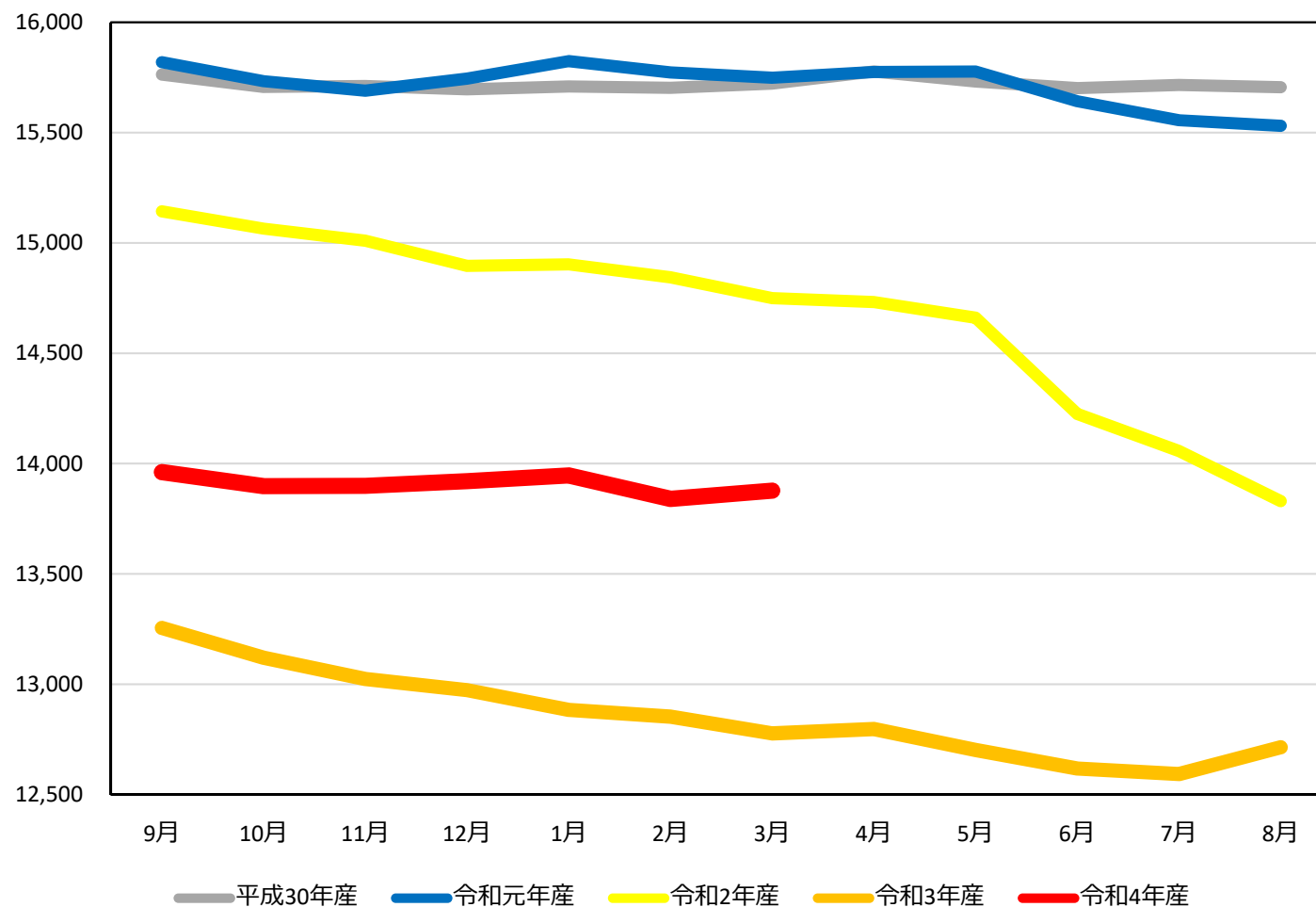
【食品】 販売数量(精米/玄米)

(単位:トン)



【食品】コメの年産別相対取引価格

(単位:円/60キ口)



平均価格	
平成30年産	15,688
令和元年産	15,716
令和2年産	14,616
令和3年産	12,835
令和4年産	13,865

<データ引用>
農林水産省「米の相対取引価格」



配当金

ヤマタネ

- ◆基本方針 : 中長期的な視点に立って事業収益の拡大と財務体質の強化を図り、株主の皆様への安定配当の継続
2024年の創業100周年に向けて、株主の皆様への利益還元策を強化するため、段階的に増配していく「累進配当」を行う
- ◆連結配当性向目標 : 35%以上
- ◆年間配当金 : 2023年3月期 56円
2024年3月期（予想） 57円

	22/3期	23/3期 9月末	23/3期 期末	24/3期 9月末	24/3期 期末（予想）
年間配当金	55円	25円	31円	25円	32円
連結配当性向	31.0%	26.9%		26.8%	



- 本資料は、(株)ヤマタネの業績動向及び事業内容について、(株)ヤマタネによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。
- これらの将来の展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- (株)ヤマタネの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来の展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、本資料開示時点（2023年5月26日現在）において利用可能な情報に基づいて(株)ヤマタネによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではございません。

【お問合せ】

T E L : 03 (3820) 1111 (代表)

E-mail : kikaku@yamatane.co.jp